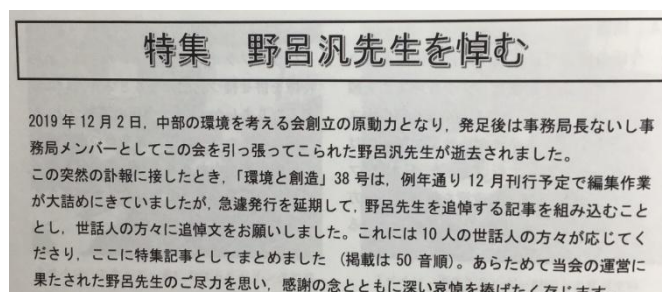
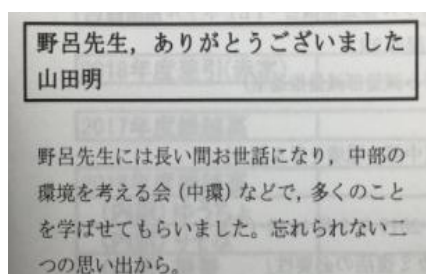


野呂汎先生を悼む

写真は中部の環境を考える会（中環）の会報 38 号である。長年にわたり、中環の「世話人」をつとめてきた。最近の名ばかりであるが、この中環を支えてきた野呂汎先生（弁護士）が昨年未亡くなられ、本号に標題の特集が組まれた。

私も「野呂先生、ありがとうございました」と追悼の言葉を書いた。「野呂先生を偲ぶ会」はコロナ禍で延期を繰り返したが、今日 2 日に開かれる。残念ながら参加できないので、私の追悼の言葉を紹介したい。



一つは1999年3月27～28日に開催された「第18回日本環境会議名古屋大会」。大会の事務局長を引き受け、慣れない「大役」にとまどいました。大会テーマ「自然・人権・開発 意思決定を市民の手に」を決めるのに何回も会議を重ね、環境団体間の意見調整に苦労しましたが、重要な局面でしっかり支えてもらいました。野呂先生が実質的な事務局長なのに、いつも私を引き立て、なんとか大会を成功させることができました。

もう一つは、2007年7月21日に開催された「四日市環境再生まちづくり提言の集い」です。四日市公害訴訟で原告が全面勝利となり、判決から35周年を記念した集いです。ピンチヒッターとして事務局長を務めました。途中からなので苦労も多かったです。何度も四日市に通いましたが、野呂先生も多忙のなか、駆けつけてくれました。帰りの電車で、四日市公害訴訟弁護団の話などをお聞きしたことが忘れられません。野呂先生や四日市公害の「語り部」澤井余志郎さんらのおかげで、集いを成功させることができました。

中環の「世話人」に名を連ねながら、ほとんど役目を果たせず、野呂先生にお詫びしなくてはなりません。でも、いま大阪の地で中環の経験をもとに、大阪万博の環境アセスメントなどに取り組んでいます。

野呂先生、長い間、本当にありがとうございました。

(2020年10月2日)